

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200461		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレールー宮 3階		
所在地	愛知県一宮市小信中島字東鷓平28番地1		
自己評価作成日	2019/9/16	評価結果市町村受理日	2019/11/28

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	2019/10/22

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である【自由に ありのままに 自分らしく】の理念を念頭にご利用者様には生活を自由にお送り頂き、本来の姿で過ごして頂き、自分らしく尊厳を保った生活をお送りいただけるご支援を行っております。ケアにおいては【笑顔の暮らし支えます】のもとに、内容としてご利用者様とご家族様との思いを大切に、ご利用者様と地域との繋がりを大切に、利用者様一人一人の生活を支えて、ご利用者様と共に笑顔溢れる場所を作ると言う事で、ご利用者様を中心としてご家族様・地域・職員といった関係を持たせて頂いている皆様でお一人お一人を支えていけるような介護を目指し日々介護をさせて頂いております。生活頂いているご利用者様全てにおいての幸福を実現できるような介護を旨とし職員一同尽力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎えるホームで 1階には小規模多機能施設が併設されており、大正琴や音楽療法のボランティア訪問時には一緒に楽しみ、顔見知りの関係になっている。利用者のレベルやニーズの変化に応じてレクリエーションや運動内容を替えていく時期にさしかかっており、外出においても近郊で季節感が感じられる内容だったり、リハビリに重きを置いて色々なバージョンで取り組み、地域にも根付いていきたいと考えている。家族会はないが、ホームの行事やレクリエーションに家族の参加を募り、合わせて交流の場を設けたり、運営推進会議への出席を促し、意見や希望を汲み取っていく中で関りを深めたいと思っている。管理者は利用者も職員もともに「ありのままに自分らしく」生活しやすい環境のホーム実現を目指している。日々利用者や職員と意見交換し、対応や内容を介護に反映して、利用者一人ひとりの「笑顔ある暮らし」の実現が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が各フロアの申し送りに参加し、理念の唱和や周知を掲げ、ユニット会議などでも理念遂行に該当する項目・事例を話している。	法人の理念を基に「笑顔のくらし支えます」をホーム理念に掲げ、4本の具体的内容、利用者や家族の思い、地域のつながり、個々の生活、笑顔あふれる場所づくりを柱としている。会議で達成の有無を確認しながら、新人は現場の先輩のケア方法からも理念の根底にある介護方法を学び、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域周辺喫茶店や周囲の散歩まででお会いする方に挨拶等や立ち話などで交流出来ている。	気候や利用者の体調を見ながら緑道等へ散歩に出かけたり、職員に加え利用者も清掃に参加して地域の方々と挨拶を交わしている。年1回 施設開放しフロアをオープンにして様子を見てもらうことで事業所の理解に繋がっており、新鮮野菜を届けて下さる方もみえる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1~2回施設開放を行い地域の方を招き施設の説明や館内拝観を行っている。民生委員様への説明会も開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内にてサービスについてや、施設行事の案内など行い施設での取り組みなどを告知している。	2か月ごとに開催し、近況報告や写真を使用して日々の生活や行事報告をしている。地域の民生委員や地域包括支援センター職員、家族と活発に意見交換されており、季節特有の内容や日常の暮らしぶりが紹介されており、具体的なホームの工夫や取り組みが理解できる場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村や地域包括支援センターなどの研修へ参加させて頂き、施設情報や入居情報の交流を行っている。	市担当課へは運営推進会議の議事録や書類の申請等で出向き、情報共有を心掛けており、何でも相談できる関係が築かれている。地域包括支援センターとは施設情報を伝え、研修情報を得たり、運営推進会議の報告で入所に繋がったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会にて各フロアの身体拘束の是非を確認し、加え新人やその他職員への拘束がなぜいけないのかを分かりやすく説明出来る様検討を行っている。	定期的に法人の資料を基に「身体拘束」の研修を実施している。職員も参加して「身体拘束適正化」会議ではケア方法の評価を行い、正しい理解と抑止を心がけている。「つい出てしまう」言葉にも職員相互で注意しあい意識付けを繰り返している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニット会議にて虐待などに関する研修を全職員を対象に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている利用者様がお見えになる為、年に2~3回ほど会議のタイミングを利用し研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や解約時など契約・解約に至る前にご家族様と数回に渡りアセスメント・質問受付を行いご理解頂いた上で実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から面会時などにご本人様の背景を四季に応じて再度伺い聞き得たニーズを生活の中で繁栄させている。	家族の訪問時は管理者やケアマネが対応し、意見や要望を話しやすい雰囲気づくりに努めている。担当者からも利用者の状況報告を行い、認識に差異が生じないように心掛けている。今後 家族同士が交流できる場も設けていきたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対してヒヤリングを不定期で実施し相談や依頼を聞き入れ業務に反映出来るように取り組んでいる。	フロアごとの会議で職員は業務や日常のケアに対する意見を出し合い、サービスの向上に努めている。「下肢筋力のレベルを維持したい」との職員の意見を反映して電動バイクを導入し、2ユニットで活用している。管理者の随時の個人面談が職員の精神面を支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接時や定期ヒヤリング時に雇用状態の確認を行い、希望に応じてシフト作成時の配慮等にて対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規職員並びに希望あれば非常勤職員への研修の参加は促し関連病院や福祉機関での研修には正規職員を含み参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会研修や事例検討会研修などに参加させて頂き、他の福祉施設の職員や介護支援専門員などと交流が行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人様へ面談を行い、生活歴・趣味・過去の仕事の経歴などを確認しサービスに繋げるべく職員周知を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にまず施設見学へお越し頂き、施設をご理解頂きその後ご家族様の現在の状況やご本人様に対しての思いなどを伺い介護関係者としての視点からご助言等させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状況を伺った上で何のサービスが必要でどのような流れで対応していくべきなのかを数日に渡り話し合いの場を設けさせて頂きご納得されるまで続けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様には日常生活の中での役割として洗濯たみや食器拭き・家庭菜園の管理などを日替わりで行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や不安な様子が落ち着かれない時などご家族様へお電話しご本人様の心身の健康維持の為に協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた喫茶店や通っていた病院などご本人様並びにご家族様の希望により、随時関係を継続出来るような支援を行っている。	これまでの生活歴を継続できるよう努めており、知人の訪問の受け入れや家族の協力で美容院や行事の参加、外出を支援している。馴染みの園芸作業を取り入れて不穏な気持ちが落ち着いた方もある。年賀状の作成や希望があれば電話の取次ぎもし、携帯電話を使用している方もある。ホーム入所後 日々の散歩コースの緑道や近隣のお店、喫茶店は馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席位置に配慮し利用者様同士が関り合えるスペースやレクリエーションを考案し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用の終了後など転居又は入院先などお顔を伺いにご面会に行かせて頂いたり等行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話などから本人様がしたい事や食べたい物などをお聴きしレクや食事に反映させており会話の無理な方には生活歴や趣味嗜好の記述やご家族様へ聴取し反映している。	言葉を通しての意思の疎通が難しい利用者もいるが、常に目線をあわせ声をかけることで表情や態度などから思いや要望をくみ取るようにしている。入居前に利用者家族の話や生活歴から情報をなるべく多く取得し、それをもとに声かけの話題をつかみ、反応をみながら意向をつかむよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントや入所後の会話などによりご本人様の入所迄の経緯を確認しサービスに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初期入居者様には日常生活の様子をADL別に情報収集を行い、現在入居されている入居者様には生活の記録を記載し情報収集や情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて職員による各利用者様の情報収集・モニタリングを行い、ケアプランへ反映させております。	職員ごとに担当する利用者が決められ、その人を主体にユニット会議で利用者ごとの様子を話し合い、支援計画に落とし込むようにしている。3か月ごとに内容を見直し、ケアマネが家族に計画を連絡説明し、それとは別に管理者も家族に計画について連絡を入れることで家族の意見をきき納得してもらったうえで計画変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や生活記録への記入をはじめ申し送りや連絡ノートを活用する事で職員同士の情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特色としてご利用者様の希望に合わせてのレクや外出をはじめ、ご家族様が付き添いできない受診などへ代わりに伺ったりと適時応じて対応を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の喫茶店や食事処・買い物へスーパーへ行くなどを通じて地域住民として参加頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に当施設主治医の往診をおすすめするも昔からの信頼あるかかりつけ医をご希望される際はかかりつけ医への受診並びに送迎を行っている。	昔からのかかりつけ医、協力医、どちらを利用することもできる。かかりつけ医の受診に際しては管理者が同行することで情報を提供している。協力医は二週間ごとに往診があるので、その折に相談することもできる。訪問看護と提携しており、24時間の電話相談も可能。歯科に関しては都度往診が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や怪我など見られた際には、訪問看護師へ電話し、状況報告と対応方法の確認を行い、必要であれば臨時訪問に来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーの作成と説明を入院先の看護師へ行い、退院時はアセスメントとして対象病院のソーシャルワーカーと随時連絡を取り合い調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに対して当社教育委員会による研修を実施し技能・能力周知を図っている。	看取りは行っていないため、入居時にその旨家族に説明了解を得ており、医療行為が必要となった場合特養などへ転居を考えてもらっている。基本的に食事をとれることが入居の条件となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャートやマニュアルを各フロアに掲載し緊急対応の手順確認を実施している。加えて不明な状況があれば随時現場責任者や施設長に報告を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回災害訓練を実施しており、その他に防災教育や洪水時避難計画など説明周知を図っており今年度救急救命を地域に向けて実施中である。	年に4回の災害訓練があり地域に掲示し、通報、避難誘導、初期消火のフルセットで日中想定、夜間想定が1回ずつ、部分的に1回ずつ行われている。災害時緊急避難場所指定ももらい、地域住民分も含めた備蓄を確保。救命救急訓練を消防の指導で予定、地域住民へも参加を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇としての基礎知識や基礎対応を研修を通じて職員に教育し職員同士が言葉かけや尊厳を保てるような声掛けを実施している。	個人情報の流出を防ぐため、対外的に発信する施設便りの画像には加工をしている。居室のドアは閉め、排泄などの声掛けには音量などで配慮している。利用者への声掛けの言葉遣いにも配慮し、気になる点があれば職員間相互で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい食事ややりたい事から今日着る服まで選択を促しご本人様の希望に応じてける様に声掛けなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝・昼など居室で過ごされたり共有スペースで過ごされたりされており、特にレクや生活リハビリを共有する事無く、自己ペースで生活されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択として起床時に更衣衣類を決定して頂き、外出が外食レクなどにも四季に応じた行為を一緒に決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段からの交流の中から好きな食べ物をお聴きし普段の食事の中で提供出来るようにメニューの考案を行っている。	残存能力的に食事作りの手伝いはやってもらえないが、毎食献立から手作りすることで利用者の好みにあった食事を提供し、食欲がおちないよう努めている。月に一度はユニットごとの外食や喫茶へ外出している。誕生日やクリスマス、おせちなどの特別食も提供している。おやつレクも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を考え栄養補助食品を提供する事に加え水分補給をこまめに実施し脱水予防に心がける事を月間目標に加えて実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にてケア行われる方は準備等行わせて頂き最終仕上げ磨きなどで清潔保持を行わせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下肢の運動を行う事で、下腹部の運動につなげられるようにサイクルマーチなど行い、自己排泄の機能維持に努めている。	今年度は退院後ADLの低下で立位も難しくなっていた利用者へ積極的な声掛けとともに辛抱強く接していった結果表情も豊かに意思疎通が図れるようになり、トイレ誘導することでおむつからリハパンへ回復した例もある。運動をうながすことで便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の起床時に乳酸菌飲料や水分摂取の頻度を増やし、廊下歩行などの運動を行い予防対策を行っている。加えて主治医等にも相談し内服の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝から夕方までに時間を問わず入浴時間を決めている。四季に応じてしょうぶ湯やゆず湯などのレクも実施している。	週に3回を基本にはしているが、希望があれば毎日でも要望に応じており、実際5、6回の入浴をしている人もいる。時間も朝から18時ごろまで対応しており、一人ずつ入れ替えた清潔な湯につかってもらっている。拒否をする人は今はいないが、声掛けや人をかえて対応することになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に希望の方や傾眠のみられる方に声掛けを行い昼間自室にて休息の時間を取らせて頂いております。夜間においても不安があり眠れない時などホットミルクを提供したり話を傾聴したりと安眠対応をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理を全職員で担当利用者様に対して実施し内服の把握や内服時の注意・在庫確認などの支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリとして家庭にみえた時のような生活支援を行い、タオルや洗濯物たたみ・食器拭き・洗濯物干し・家庭菜園管理など行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など外気や天候などと相談し出来る日には散歩などを行い、月に1回以上は外食や喫茶などに行くようレクを考案している。	できるだけ屋外の空気や四季を感じられる散歩に出ている。すぐ近くの散歩道やスーパーがコースとなっている。喫茶や外食、花見、歴史資料館などへの特別外出もユニットごとに全員参加で行われている。出かけたい人がいれば、できる限り支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設にて管理させて頂いている。買い物に関して施設に御預かりさせて頂いているお金よりお支払いさせて頂き、買い物希望者の付き添い職員が事務職員より確認ののちお預りしお支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1か月に1度ご家族様へご利用者様の生活の様子及びお写真を添えて現在の様子が分かるようにとお送りさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月四季に応じた飾りやご利用者様との作品を掲載させて頂き、極力外気に応じて窓を開けて空気を取り入れる様に配慮している。	日当たりのよいリビングは利用者の製作物やひな人形など季節感のあるものが飾られ、心地よい温度設定で気温が保たれている。掃除が行き届き、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングフロアにてソファをニカ所配置し話の合う利用者様同士でソファに座られ談話されており会話のスペースとして活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時においても自宅にある品で昔お使いになられていたタンスやテーブルなど持ち運び頂ける様に声を掛けて、入所後においても四季の飾りやお写真など飾らせて頂いている。	使い慣れた椅子やタンス、テレビなどを持ち込んでいる人もいる。畳を置いている人もいる。それぞれの作品を壁やタンスの上に飾って、心地よい自室を作り上げている。職員が空気の入替えや掃除をして清潔な居室を保てるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの表記を大きくし自己にて排泄を行えるようにし居室においても表札に鳥の名前があり自己の部屋が分かるように配慮させて頂いている。		

## 目標達成計画

作成日: 令和元年 11月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族代表や民生委員・包括支援センターといった限られたメンバーでの開催を行っている為特定の関係者様からはご理解ご協力を頂いているが包括的にご利用者様の生活を支援しようとするとその他のメンバーの考慮が必要となる。	家族代表に限らず様々なご家族様の出席を仰ぎ、その他関係機関である消防署や地域省察にも出席頂く。	・ご家族様へ運営推進会議の内容を改めて説明しご出席に向けてご理解を得る。 ・消防署や警察署等へも同様の説明をしてご理解頂き出席へ結びつける。	6ヶ月
2	6	身体拘束は実施していないが新規職員への教育と引き続き、拘束をしない取り組みを実施していく必要がある。	身体拘束をしない介護の実践と身体拘束をしない教育の実施	・不穏や徘徊等が見られた際は環境の変化や落ち着いて過ごせる場所を提供出来る様に生活環境への配慮や整備を行っていく。 ・新規職員へは実際の事例を用いて現職員含め検討し合える環境を作る。	8ヶ月
3	36	個々の利用者様のへの配慮として個の空間の擁護や会話の仕方による尊厳保持を引き続き行って行っていく必要がある。	個々のプライバシー空間を守り丁寧な対応・声掛けによる尊厳保持を行う。	・引き続き入室時時にはノックをして入らせて頂く。 ・各居室の環境整備を行い居心地よく過ごせる場所を提供していく。 ・声の掛け方にも留意して接遇の所作を実施していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。